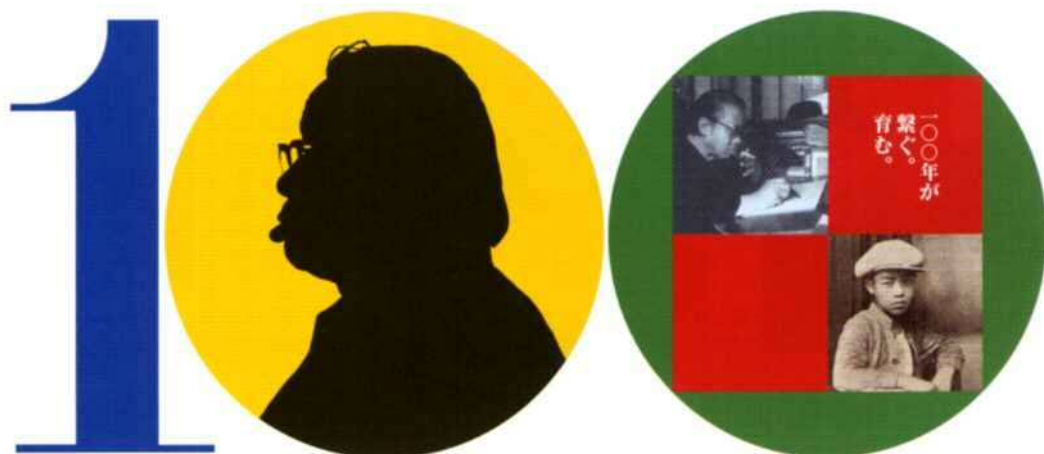


生誕
100年記念事業スタート。

松本清張展

清張文学との新たな邂逅

平成21年 平成22年
4月11日〔土〕—1月17日〔日〕主催：松本清張生誕100年記念事業実行委員会 / 財団法人せたがや文化財団 /
財団法人郡山市文化・学び振興公社 / 姫路文学館 /
財団法人仙台市市民文化事業団 / 財団法人高知県文化財団松本清張生誕100年
記念巡回展

目次

● 生誕100年記念事業	2
● 宮本忠長・吉良森子講演会	4
● 松本清張研究会第19回研究発表会	6
● 友の会活動報告	6
● 研究誌第10号発行	7
● 探検！清張記念館	7
● トピックス	8

世田谷文学館

平成21年4月11日(土)～6月7日(日)
会場 ■ 世田谷文学館
〒157-0062 東京都世田谷区南島山1-10-10
TEL.03-5374-9111
<http://www.setabun.or.jp>

こおりやま文学の森資料館

平成21年6月20日(土)～7月20日(月)
会場 ■ 郡山市民文化センター展示室
〒963-8878 福島県郡山市堤下町1番2号
TEL.024-934-2288
<http://www.bunka-manabi.or.jp/~bungakumori/>

姫路文学館

平成21年7月31日(金)～9月13日(日)
会場 ■ 姫路文学館
〒670-0021 兵庫県姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
<http://www.city.himeji.lg.jp/~bungaku/>

仙台文学館

平成21年10月1日(木)～11月23日(月)
会場 ■ 仙台文学館
〒981-0902 宮城県仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020
<http://www.lit.city.sendai.jp/>

高知県立文学館

平成21年12月1日(火)～平成22年1月17日(日)
会場 ■ 高知県立文学館
〒780-0850 高知縣高知市丸ノ内1-1-20
TEL.088-822-0231
<http://kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/>

企画・制作

北九州市立松本清張記念館
〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号
TEL.093-582-2761 FAX.093-562-2303
<http://www.kid.ne.jp/seicho>

特別企画展

「一九〇九年生まれの作家たち

— 大岡昇平・中島敦・太宰治・埴谷雄高・松本清張 —

新資料！ 埴谷雄高旧蔵・新潮文庫『白痴』が中島家から…！

埴谷雄高が白中学在学中読書に耽溺した時代、ドストエフスキイの『白痴』と出会ったことは、彼の生涯において特筆すべき出来事でした。埴谷はこの作品によって「驚くべき新鮮な世界の存在を示す体験」をし「文学についての自覚」を持ったといいます。

その、埴谷が愛読した『白痴』が、数十年の時を経て、中島敦の長男・恒さんのお宅にあることがわかりました！

恒さんの妻・中島敏枝さんが国民学校6年生の頃、埴谷の妻・としの兄にあたる伊藤家が、強制疎開というかたちで、埼玉の敏枝さんの家へ同居したことがありました。そこへ、とし夫人がたびたび訪問し、ある日「主人の読み古しなのよ」と新潮文庫の『白痴』を下さったということです。

当時、本が手に入りにくい時期でもあり、敏枝さんは「般若の小母さん」からもらった『白痴』をとっても大事にしました。その後、中島敦の長男・恒さんに嫁ぎ、埴谷旧蔵の『白痴』は、夫人から夫人へと

経て中島家から発見されました。こんな形で中島敦と埴谷雄高に接点があるとはなんとという奇遇でしょう！すでに半世紀以上を過ぎ、第1巻はどこかへいつてしまったようですが、2・4巻は現在まで大切にあってあります。

3月中旬より、この資料を企画展「一九〇九年生まれの作家たち」で展示しています。



清張音声対話システム

九州工業大学HITセンターとタイアップして、松本清張記念館内に4種類のシステムを設置しました。

1 「書斎のいすに座ってみよう」

記念館内では、東京・高井戸の清張書斎が再現されています。室内に立ち入ることはできませんが、清張が椅子に座り、眼にしていた書斎内部をライブ映像で見ることが出来ます。

2 「探検！ 清張さんの書庫」

3万点の蔵書・資料が収められた書庫。どの棚に、どんな背表紙の本が置かれているのか。コンピュータを通して自由に書庫の中を移動し、探索することが出来ます。本棚の映像は随時更新していきます。

3 「清張さんと2ショット」

設置された電話で清張と会話が出来ます。約50種類の質問項目から話しかけると、清張の声で応えてくれます。また、約70インチの画面を背景に、清張と一緒に記念撮影ができます。記念館内で撮影できる場所はここだけです。

4 「なりきり清張さん」

眼鏡、帽子、くちびるなどのパーツを選んで、画面の前に立つと一瞬にして清張そっくりに変身することが出来ます。



ライブカメラ

ライブカメラをタッチ▶パネルで操作できます。

記念切手の発売

清張生誕100年記念オリジナル切手を北九州市内の郵便局で発売します。7月から9月の期間限定となります。枚数も限定ですので、お求めはお早め！

日時 現在開催中 8月31日(月)

9時30分～18時 (入館は17時30分まで)

場所 北九州市立松本清張記念館・企画展示室

入場料 常設展示観覧料に含む

清張生誕100年 事業紹介

記念講演会

直木賞作家の大沢在昌氏、京極夏彦氏、宮部みゆき氏をお招きし、トークショーを開催します。お三人の話を一度に聞けるめったにないチャンスです。チケット発売情報は、後日、チラシや清張生誕100年ホームページなどでお知らせします。

プロフィール

●大沢 在昌 (1956年生) 直木賞作家



愛知県名古屋市出身のハードボイルド、冒険小説家。
79年『感傷の街角』で第1回小説推理新人賞を受賞してデビュー。
『新宿鮫』で第12回吉川英治文学新人賞、第44回日本推理作家協会賞を受賞し、94年『無間人形 新宿鮫IV』で第110回直木賞を受賞。
05年日本推理作家協会理事長に就任。

●京極 夏彦 (1963年生) 直木賞作家



北海道出身の小説家。アートディレクターとして、現在でもデザイン・装丁を手掛ける。
94年『姑獲鳥の夏(うづめのなつ)』でデビュー。96年『魍魎の匣(むらさけのはこ)』で第49回日本推理作家協会賞を受賞し、98年に『嘆く伊右衛門(なげうゑもん)』03年に『読き小平次(のぞきこへいじ)』がそれぞれ直木賞候補となり、04年『後巷説百物語(のちのこうせつひゃくものがたり)』でついに直木賞を受賞。

●宮部 みゆき (1960年生) 直木賞作家



東京都出身でミステリー、時代小説、ファンタジー等ジャンルの壁を超えて活躍している。
法律事務所勤務などを経て、87年『我らが隣人の犯罪』でオール讀物推理小説新人賞を受賞してデビュー。『龍は眠る』で第45回日本推理作家協会賞を受賞し、99年『理由』で第120回直木賞を受賞。04年『宮部みゆき責任編集 松本清張傑作短篇コレクション 上・中・下』を刊行。

写真撮影：塔下 智士

日時 平成21年8月4日(火) 19時
場所 北九州芸術劇場・大ホール

原作舞台劇

劇団前進座が芥川賞受賞作の「或る『小倉日記』伝」を上演します。田上耕作を朗読劇でおなじみの柳生啓介が演じます。
チケット発売情報は、後日、清張生誕100年ホームページなどでお知らせします。

日時 平成21年10月2日(金)〜4日(日)

場所 北九州芸術劇場・中劇場

豆情報

劇団前進座は、清張生誕100年を記念して、東京・国立劇場大劇場で清張原作「左の腕―無宿人別帳―」公演を行います。主演は中村梅之助。期日は、5月10日(日)〜22日(金)です。東京へご旅行の際は是非お立ち寄りください。

映画『ゼロの焦点』

清張原作「ゼロの焦点」の映画化が決定。監督は犬童一心氏で、全国東宝系で2009年秋公開予定。主演は、広末涼子、中谷美紀、木村多江。

清張生誕100年記念グッズの紹介

松本清張記念館ミュージアムショップでは、清張生誕100年記念グッズを販売中です。今年のための発売となります。キャンペーンバスコンピバッグ(525円)、キャンバスブックカバー(525円)などが人気です。



●“清張生誕100年記念事業”に関するお問合せは

松本清張生誕100年記念事業実行委員会事務局
TEL:093-582-3275 FAX:093-582-1055

●松本清張生誕100年ホームページ

清張生誕100年記念事業の情報が一目でわかるホームページを開設しています。
<http://www.seicho-100.com>
ホットな情報を随時更新中。

「清張記念館の建築をめぐる」

宮本 忠長

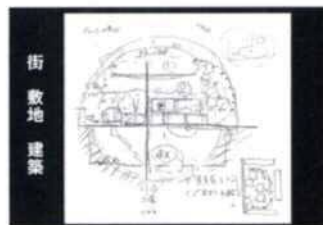
紹介にあずかりました宮本忠長です。現在八十一才になりますが、設計というのにはやりがいがあって、まだまだやりたいことが沢山あります。いつも「もう少しやればよかったかな」と思っています。今日は松本清張記念館がどのように出来上がったかを申しあげたいと思います。

の生き様のようなものが出せたらと、また、清張さんのイメージがどのようなになれば良いかと考えました。

また、清張さんの仕事の復元をせねばならなかったのですが、ここは凄惨な場所です。エネルギーが集中された非常に静謐な場所、我々はなかなか入れない。そんな仕事をやり込むのは難しい。どういう人で、九州時代や、全貌や、仕事の全てを、この敷地、街という風景の中でイメージを形にしながら考えましたが、何度図面を引いても「違うのでは」と、非常に苦労しました。

そんななか、藤井さんと津和野での会議の帰りに話しました。いまは「津和野会議」と命名しています。不屈の精神で努力し続けたことや、さまざまな業績は清張さんを語る上で欠かせないし、きちんと入れねばならない。しかし、書斎というのはまた違うのではないかと。書斎はあくまで自分と戦う場で、戦場です。世の中の接点とは違いますが、藤井さんと話しているうちに私の気持ちもふくらんできて、建築でも表現したいと考えました。

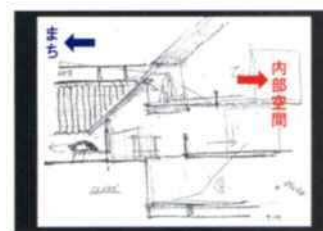
浜田山にある書斎をそっくりにつくり戦場を表現する。清張さんの全貌を見てから静



街 敷地 建築

まず記録を一枚ご覧下さい。敷地は歴史景と都市景、相対する二つの干渉からなるということを描いています。清張記念館の設計をはじめる少し前から、そのようなことを考えていました。歴史景とは、歴史をいろんな角度から見た場合に見える風景のことであり、都市にさまざまな要素があるということが都市景です。この二つを一緒にして私は「修景」と言い、非常に大事だと考えています。

建築では、必ずここで何をしたらいいかと考えます。清張記念館の場合は、清張先生



謐な空間に移るといふように狙いました。外回りは瓦ですと巻きました。この場所は昔の遺跡が出てきますが、これを今の入り口に移しました。古いものも同時に表現して新しいものをつくるのも、一つの方法ではないかと思っています。

開館以来振り返りまして、BCS賞を受賞するなど、大変いい勉強をさせて頂いたのではないかと思います。清張さんについても、私も色んな意味で教えて頂きました。修景ということも含めて、清張さんの建築はこれからさらに立派になるのではないのでしょうか。

宮本 忠長 (みやもと ただなが)氏

1927年長野県須坂市生まれ。早稲田大学理工学部卒。佐藤武夫設計事務所を経て、郷里の家業を継ぎ、(株)宮本忠長建築設計事務所と改組。現在、代表取締役所長。日本建築士会連合会会長、日本建築家協会名誉会員。

松本市美術館(日本芸術院賞、第41回BCS賞)、長野市立博物館(日本建築学会賞)、森鷗外記念館など多くの文化施設のほか、信州小布施町の街並修景計画(毎日芸術賞、吉田五十八賞)でも高い評価を受けている。

トークショー

おふたりの講演ののち、宮本氏の片腕として設計時から携わっておられる久保隆夫氏(宮本設計事務所取締役副所長・設計本部長)と藤井康栄館長も加わり、トークショーを行いました。

「修景」の視点から

吉良 オランダで仕事し、建築はその都市の歴史に参加することだと思えるようになりました。先生が「修景」を考えられたきっかけは何ですか。

宮本 小布施という小さな街で、建物の中は個人のものだが、外回りは皆のものということから考えました。

久保 吉良さんのお仕事の話もまさに「修景」のなかにあると思います。私もまだ勉強中ですが、変えていいもの・いけないものの見極めが重要だと思います。

吉良 建物の本質を見極め、連続性を保ちながらどう先へ進めるかを考えるのがリノベーションの楽しみです。全部を変えるのではなく、過去から残ってきたものを受け入れることで、自分自身も豊かになると気づきました。

久保 次の時代につなぐ仕事に、新しい価値を見つけているのも我々の仕事だと。

宮本 かつて町には、ものごとはじまりとして公益性があったと思うんですね。街並みというのは建築をやっていくうえで欠かせないと思っています。

吉良 上から押しつけるのではなく、本当の公益とは底から出来あがっていくものだと思います。街並みのために決断を受け入れる伝統のようなものは、どう育てていったら良いのでしょうか。

久保 所長から小布施の話が出ましたが、私どもは「修景」という視点からデザイン基準や住まいづくり相談などもしています。基準や条例で拘束するのではなく、建築家や都市計画の専門家がいて誘導するのが大切だと考えています。

吉良 コンセンサスを持ち、自分たちの町はこういふふうだという認識があるのが大切ですね。



松本清張記念館開館10周年記念・第32回まちづくり研究セミナー

宮本忠長・吉良森子講演会

平成20年10月31日(金) 14時

男女共同参画センタームーブ 大セミナールーム



清張記念館は、平成二十二年に開館十周年を迎えました。平成十二年には「第四十一回建築業協会賞（BCS賞）」を受賞していますが、これはデザインだけではなく、設計・施工・環境および建築物の運用・維持管理等が総合的に評価されたものです。

記念館の設計者である宮本忠長氏と、オランダなどで国際的に活躍している若手建築家・吉良森子氏をお招きし、松本清張記念館を中心として、これからの文化施設の可能性とまちづくりをテーマにお話していただきました。

「二十一世紀の建築とまちづくり」

吉良 森子

私 は留学をきっかけにオランダに渡り、現在は設計事務所を主宰しています。オランダは国土を干拓で自分たちで作った国です。電力のない一三世紀頃から風車と運河のシステムを使い、水と闘いながら維持管理してきました。つまり自分たちの都市、農地、そして自然の風景をコントロールしながら国土を作る伝統があり、今も維持されています。たとえばアムステルダムは運河沿いに建つ煉瓦の風景で知られていますが、空中から見ると、同心円状の運河の間に住宅が建っています。一七世紀に始まったシステムですが、いまでも都市計画に基づきながら新しい都市を造っています。



こういう伝統があるので、面白いことに、建物を造るものとしても、周辺の風景そして歴史に対して持つ意味を考えながら仕事をしています。新しい建物を建てたりリノベーションをするときには構

造や消防計画に加え、デザインがそのエリアに合っているかも審査されます。美醜ではなく、建物と周辺との関係をどう考え、そしてどう貢献しようとしているかの説明を求められます。建築家としては一生懸命したデザインを批評されるのには抵抗もありますが、常に審査されることを意識していると設計の段階から周辺を意識するということを学べて、非常に面白く思っています。先程宮本先生が「修景の話」をされましたが、新米の私も先生とどこか繋がった気持ちです。

教会をリノベーションして、オフィス兼ねるというプロジェクトに関わりました。一九世紀の建物ですが、二一世紀ともなると毎週教会に通う人も減り、宗派も小さくなっている。将来教会に来る人がいなくなる前に、建物が大切に使われ続けるよう、いまから変えていきたい、そのためにパートナーを見つけて、教会兼オフィスにしたいということでした。私自身、宗教に関わる人は古い伝統を大切にしていると思っていたので、この要望には非常に驚きましたが、彼らがこれまでも時代に合わせてインテリアを変えてきたことを知り、納得しました。

非常に小さな建物なので、一階部分を教会

吉良 森子（きら もりこ）氏

1965年東京都生まれ。早稲田大学建築学科大学院卒業。大学院在学中、オランダ政府より奨学金を受けデルフト工科大学に留学。1992年より4年間ベン・ファン・ベルケル建築事務所に勤務。1995年ローマ賞基本賞受賞後、アムステルダムに建築事務所を設立。1998～2002年オランダ住宅・国土開発・環境省建築局に建築士として勤務。シーボルト邸（シーボルト博物館）、オランダ首相官邸をはじめとして、日蘭両国で住宅・美術館・歴史的建造物の増・改装などのプロジェクトを手がけている。

のフロアに、二階をオフィスにしました。避難に必要な階段を見えないところと通りからよく見えるところに付けました。フローニンゲン市という古い町の歴史的な地区にあります。立派な外観を妨げず、出来る限り透明に内部のダイナミックな変化を外に表現したいと、外から見える階段をガラス製にしました。こうした建物は初めてで、美観委員会では苦勞するかと思いましたが、「歴史的市街区も、将来に向かって変化するダイナミズムを表現するべきだ」と主張したところ、幸いなことに許可を得られました。

この教会のホールでは、展覧会なども行われます。教会の中の新しい空間と、歴史的な空間と、全く新しいガラスの建物との三つが一つとなって、歴史のレイヤーを感じられる建物になったと思っています。

建物と清張の融合 ～津和野会議～

森井 吉良さんは今日初めて清張記念館をご覧になっていかがでしょうか。

吉良 三つ印象に残っています。外から垣根に沿って歩いてきて、入り口が見える瞬間。館長室から、お堀の石積みと、石の外装と床と、セラミックの壁が見える瞬間。そして一番印象的だったのは、展示室2に入り、二つの小さな窓から清張さんの家が少し見え、そして角を曲がると玄関がパッと登場するあの瞬間です。さらに進むと書庫が圧倒的に迫ってくる。どのようなことを考えてデザインされたかを伺えますか。たとえば、屋根は。

宮本 高低二つの建物の低い方は瓦を使い、高い方はセラミックですが、木造の建物をイメージしています。

吉良 二つは内部的にも違う空間で全く対照的なのに、どこか融合していく感じが面白いです。違う素材を使い一つ一つの世界を作り上げていくには、どのように試行錯誤なさったのでしょうか。

久保 実はそれが「津和野会議」なんです。当初、展示内容と建物の計画は別に動いていました。我々は建物と都市とでレイアウトを考えていましたが、津和野会議を経て、展示方法も含めて考えねばと、紆余曲折を経て、仕事の巨大さを示す部分と、仕事場の魂の置き所を分けようと。

森井 私はまだ曖昧なアドバイザ的な立場だったんですが、津和野で最初の図面を初めて見てショックを受けました。自分の勝手なイメージとの違和感があつたのです。思い切ってお話してみたら、宮本先生はソフトに受け止めて下さり「仕事をすると建築家が話す機会はそうないんですよ」と。次の日、移動中もずっと話を聞いてくださり、最後は「頭が動き出している。ちよっと時間をくださいな」と言われました。久保さんは何度も図面をひきなおして。その結果、いまの記念館があります。

吉良 この記念館の本質は、この部分だと思っています。外に向かって低く、中はドラマチック、清張という人の仕事場があれだけのパワーを持っているなかつたら、こんな大きな空間、強い衝撃のある建築は違和感があつたでしょう。あのポリウムを決めたのは宮本先生ですが、作家清張のエネルギーがあつたのを作ったというか、宮本先生の手に乗り移ったのかもしれない。建築と清張という人の融合が成功している建物だと思います。

松本清張研究会 第19回 研究発表会

日時：平成20年12月6日(土) 午後2時～
会場：東京学芸大学

年の『影の車』。野村芳太郎監督の上質な心理サスペンス。四季の変化を映画の



焦点」から、『サスペンス』といえは崖』というのが始まったのではないか。
さらに、一九七〇

次に、一九六一年の『ゼロの焦点』。これも野村芳太郎監督作品。『暗い過去』を消そうとして人を殺す現在の成功者』という構造が、『飢餓海峡』などにも通じる、日本の推理映画・ドラマの一つのパターンになっている。日本の社会が、高度経済成長の前と後では相当変わっているから、そういう物語が出てくる。さらに、一番最後のクライマックスに能登金剛が出てくる。たぶんこの『ゼロの

き放すようだ、その部分を直さなくてはいいけない。そこから全体に手が入っていくことが多くある。あと、小説と映画との論理の次元の違いみたい所で、すごく苦労する。小説ではわりと、主人公なり登場人物がセリフで説明していくのが読みやすい。ところが、映画で説明をセリフでやっていると、『説明ゼリフ』、とても聞いてられない。そこでセリフが入れ代わっていく。そうやって、どんどん原作から離れていく場合もある。

●映画監督として推薦したい作品。
まず一九五八年の『張込み』。野村芳太郎監督、橋本忍脚本、松竹大船製作。一人の女を観察しつづけることで、その女に同情し共感していく。あたかも見ていくうちに自分がストーリーカーになったかのような気がしてくる。面白い映画でした。

●質問「金子さんが映画化したいと思つたら、松本清張作品の中で何を選ぶか？」
もう一回、『張込み』をやるなら面白いなと思います。

宮部みゆきさんの『クロスファイアー』を映画化したときには、宮部さんの庶民的な部分というか、そういうセリフを物語の中から抽出して構成していくという苦労をしました。ただ原作のラストは映画よりもっと突き放したものでした。主人公の矢田重希さんはシナリオを読んだときに、『原作よりも私の役はよくなっている』と言っていました。そういうことで変わっていく。『デスノート』は非常にやりやすかった。物語はどう変えてもいい、ただ漫画における『デスノート』のルールだけは変えないでくれと言われた。ただ『デスノート』のルールも、山のようにある。しかも、最初にぜんぶ考えてない。連載の途中に新しくルールを作っていると思われる節がある。これに合わせるのが最後にはものすごく大変でした。



●質問「例えば、『砂の器』は原作と全然違う。映画化は、原作を素材にして新しく解釈して脚本を書くことだと思つたが、文字を映像化するときにどこがポイントか？」
映画は多くの観客を共感させることが必要になる。そこで、原作のストーリーが非常に優れたプロットであつても、最終的に冷たくて客を突

定期講座は今年度初の試みでしたが、会員からも大好評！今後も続けていきたいと思っています。みなさまよろしくお祈いします。

友の会 活動報告

●清張サロン定期講座

毎年度に2～3回行っている清張サロンを今年は生誕祭の講演会を皮切りに6回講座で行いました。生誕百年を記念し多くの方に清張作品を楽しんでもらおうと一般の方を交えてのサロンです。

昨年12月に『火野葦平とその仲間達』として河伯洞の玉井史太郎氏に講演をしていただきました。今年の1月に中野副館長が『西郷札』とその時代』を、2月に増田連氏の『菊枕』の伝説と真実』と赤塚正幸氏の『遺難—新たな密室の発見—』、3月に小林慎也氏『骨壺の風景』と網屋喜行氏『象徴の設計』から『二・二六事件』へを行いました。

毎回、30名ほどの会員が参加し、講義を熱心に聞いたあとは、質問と意見交換で白熱しています(笑)



●朗読劇

毎年大好評！劇団前進座による朗読劇です。

4月18日(土)『点と線』

●観劇と巡回展ツアー

生誕100年記念事業として5月9日～11日、『左の腕』『黒革の手帖』舞台の観劇と世田谷文学館で行われる巡回展「松本清張展」の見学。

●文学散歩

5月下旬に日帰りバスハイクを予定中。今回は柳川へ！

研究誌『松本清張研究』第十号発刊

定価二〇〇〇円



第十号の特集は「同年に生を享けて——一九〇九年生まれの作家たち」です。

大岡昇平、中島敦、太宰治、埴谷雄高、松本清張は皆、一九〇九年（明治四十二年）に生まれました。そして、それぞれのスタイルで時代と向き合い、作品を書きました。座談会からは、彼らが生きなければならなかった時代の形も浮かんできます。エッセイも多彩です。

座談会 同年に生を享けて 一九〇九年生まれの作家たち

半藤一利 加藤陽子 宮田穂栄 藤井康栄（特別参加）

大岡昇平 小説家が発するまで 菅野昭正

埴谷雄高 廃墟の王——埴谷雄高と「戦後文学」の終焉—— 山口 泉

中島 敦 中島敦と永遠の蛇 宮田浩介

太宰 治 太宰一〇〇年、そして清張 細谷 博

松本清張 〈文学〉の組み替えへの反動——昭和三十年代の清張批判—— 山田有策

一九〇九年生まれの五人の作家 年譜

エッセイ 清張作品と私

清張より五歳遅いデビュー 内田康夫

『古代史疑』僅か二度のお使い 井出孫六

私の教科書 江川紹子

青春の〈清張漫談〉 杉原志啓

清張と新本格推理 有栖川有栖

『日本の黒い霧』の衝撃から…… 坪内祐三

授業で知った『点と線』 岸本葉子

清張の考証 福田和也

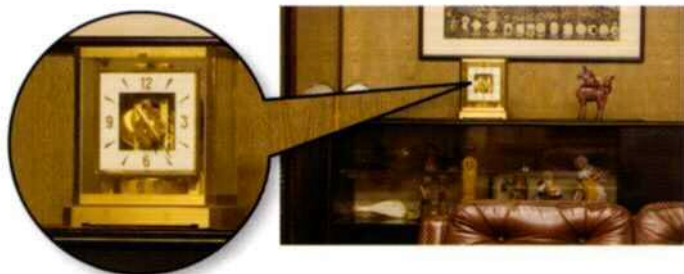
ワルの魅力 唐沢俊一

海峡と『点と線』 斎藤克己

*バックナンバーは好評発売中です。通信販売をしていますので、ご利用下さい。

きよしとハルコの探検！清張記念館

1F “菊池寛賞の時計”の巻



きよし 記念館が菊池寛賞を受賞したんだってね。^{*1}

ハルコ 60年近く続く伝統ある賞だもの、光栄よね。松本清張も昭和45年に受賞しているわ。

きよし それにしても清張と菊池寛のつながりって、深いね。^{*2} 文藝春秋も芥川賞も、菊池寛が作ったものだし、清張は菊池寛を敬愛していたみたいだ。生前、講演会で「もっと早く生まれていたら、菊池寛の弟子になっている」とまで言ってる。

ハルコ いわば「心の師」ってとこかしら。若いころ、貧しくて苦労した、という事にも親近感を持っていたみたい。

きよし そんな菊池寛の名を冠した賞の記念品がこの時計だね。応接室に飾るなんて、かなりうれしかったんだな。

ハルコ 実はこれ……、受賞したときの物じゃないの。泥棒に盗まれてしまって、それを知った当時の文春の社長が作り直してくれたものですって。

きよし うわー。前代未聞！そりゃ応接室にでも飾らないと文春に申し訳ないよね～。

^{*1} 館報 29号

^{*2} 企画展図録バックナンバー「松本清張と菊池寛」販売中

菊池寛賞の時計が2つもあるのはおそらく当館だけ（記念館受賞の時計は公開未定）。実際は直接対面したことのなかった二人でしたが、何か強い縁を感じずにはいられません。清張受賞の時計は再現家屋1F応接室内に展示されています。

平成21年度 中学生・高校生

読書感想文
コンクール

昨年に引き続き、清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「顔」(角川文庫「顔・白い顔」、光文社文庫「松本清張短編集⑤ 声」、新潮文庫「傑作短編集5 張込み」など)

「西郷札」(文春文庫「宮部みゆき責任編集松本清張傑作短編集コレクション」下、光文社文庫「松本清張短編集④ 西郷札」、新潮文庫「傑作短編集3 西郷札」)

「球形の荒野」(文春文庫「球形の荒野」)

■応募方法

- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしませんので、必要な場合はコピーをおとりください。

■応募締切 平成21年10月31日(土)必着

■応募先 〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区城内2-3

松本清張記念館 感想文コンクール係

※応募用紙は記念館公式HPからダウンロードできます。

■選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

審査結果は、12月下旬頃、本人と学校に通知します。
最優秀賞、優秀賞の受賞者には、表彰式を行います。
なお、入選の結果や受賞作品を記念館刊行物等に掲載することがあります。
その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

- 最優秀賞(1人)(モンブラン)万年筆「マイスターシュテックNo.149」
 - 優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具など(未定)
 - 佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人) 図書券など
- ※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。
最優秀受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は「特別賞」として「館報」掲載を予定しています。

●主催 北九州市教育委員会

●主管 北九州市立松本清張記念館



2009年

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

http://www.kid.ne.jp/seicho

制作 (株)エディックス

●開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)

●休館日 年末(12月29日～12月31日)

●観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)

小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体

●アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分

小倉からは100円バスをご利用ください(小倉城・松本清張記念館下車)

車: 北九州市高速、大手町ランプより5分

第12回 松本清張研究奨励事業募集

募集要項

- 対象 ①松本清張の作品や人物を研究する活動
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人または団体も可。
- 内容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的にわかる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成22年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

2008年度・ドラマ化された清張作品

2009.1.24 「疑惑」 テレビ朝日

2009.3.4 「黒の奔流」 テレビ東京

オープニング式典

松本清張生誕100年記念事業のスタートとしてオープニング式典が開催されました。式典では、映画・ドラマ「砂の器」で使用された協奏曲「宿命」を響ホール室内合奏団が演奏し、清張が勤務した印刷所店主の孫にあたる舞踊家・花柳寿寛氏が祝いの舞を披露しました。

これからいろいろな事業が開催されます。是非多くの方々にご参加いただき、この記念すべき年と一緒に祝っていただきたいと思います。



編集後記

2009年は清張生誕100年。今年は例年より多くの方々に入館いただいています。館内では、書斎にライブカメラを設置するなど新たな仕掛けがしています。皆さんも新たな魅力が加わった記念館に足を運んでみてください。

(碓 政幸)

